

審議会等議事概要

平成24年度 第2回 滝川市都市再生整備計画事後評価会議 議事概要

日 時	平成24年11月27日（火曜日）午後6時30分～午後9時00分
開催場所	滝川市役所4階 401会議室
出席者	委員：小篠委員長、鈴木委員、続木委員、田端委員、井田委員 事業説明：工藤所長（まちづくりセンター）、木村副館長（図書館） 事務局：浦川課長、加地副主幹、青木主査、後呂主査
議 事	1 開 会 2 審議事項等 （1）滝川市都市再生整備計画（全体）の概要 【事務局】 事後評価の説明 ▽事後評価の主体は滝川市。評価作業の具体的な進め方や目標が達成されたか否かの判断、今後のまちづくり方策や改善策の必要性など、これらの手続は市の自主的な運営と判断に委ねられている。 ▽そこで、滝川市都市再生整備計画事後評価会議は、市による事後評価が適切に遂行されたことを中立・公正な立場で確認していただき意見を求めること及び今後のまちづくり方策等について意見を求めることを目的としている。 ▽都市再生整備計画では、事後評価を事業の良否判断のみに終わらず、今後のまちづくりに反映させるなど、まちづくりの成果を高めることを前提としていることから、時期は交付終了年度に実施するものである。 ▽事後評価については、7月に国へ提出した方法書に基づき評価を実施。その、原案はすでに公表し、意見を募集した。 計画の概要説明 ▽対象区域は、中心市街地区域に坂の上商店街の一部を含む110.5ha。 ▽滝川市として、3つの課題。①市街地の拡大による中心市街地の衰退、②核家族化、地域コミュニティの希薄化、③少子高齢化に伴う人口減 ▽これら課題に対し、大目標として、居住機能の充実、良好な歩行空間、魅力ある拠点づくり、多様な主体の連携による活発なまちづくり活動などにより、歩いて暮らせるコンパクトで活力と魅力ある中心市街地形成を目指した。 ▽さらに、各課題に対する目標として、①に対し、居住機能等の集積により、コンパクトなまちづくりを推進、②に対し、市民が集い賑わう場を形成、③に対し、良好な歩行空間を形成させ、回遊・滞留ルートづくりを推進することとした。 ▽整備方針については、①に対し、基幹事業：公営住宅等整備、関連事業：市立病院改築事業及び街なか共同住宅建設補助事業、②に対し、基幹事業：既存建造物活用事業（追加）、提案事業：地域創造支援事業及び事業活用調査、関連事業：商店街拠点づくり事業、③に対し、提案事業：事業活用調査を整備することとした。

▽それぞれの整備に対する判断として、3つの指標を定めている。

- 1・居住人口（従前値2,660人／目標値2,800人／評価値2,802人）、
- 2・歩行者通行量（従前値7,008人／目標値10,000人／評価値11,306人）、
- 3・図書館利用者数（従前値43,000人／目標値65,000人／評価値103,600人）

【委員長】

▽各目標に対する指標（居住人口、歩行者通行量、図書館利用者数）を立て、その経過・概要について説明があった。

▽本日は、実際にどういう事業を実施し、どんな課題があるのか、基幹事業・提案事業を実施した担当者も参加し話を伺うので、説明をお願いしたい。

（２） 各事業の成果と実施過程

- ア 【基幹事業】 既存建造物活用事業（まちづくりセンター）
- イ 【提案事業】 事業活用調査（図書館活用向上調査事業）
- ウ 【提案事業】 賑わい再生ロード調査事業

まちづくりセンター

▽まちづくりセンター（以下「まちセン」という。）の概要について、建物は昭和57年に建設されており、従前は第1パーキングビルとして利用していたものを滝川振興公社から市が購入し、昨年12月17日に改築オープン。

▽まちセンを中心市街地に設置した主な理由としては、交通の利便性はもちろん、市の南地区において、市民及び活動団体（町内会等）が集える交流施設や情報発信施設など、コミュニティ活動を支える施設がないことから設置。

▽設置目的は、上記以外に、市民の自主的なまちづくり活動の支援、市民の交流の場の提供を行うことにより、市民、事業者、市民活動団体、行政が協働でまちづくりを推進し、豊かな市民生活、活力のある地域社会の実現するため。

▽まちセンは商店街に位置し、JRやバスターミナル、高齢者向けの住宅施設にも近いことから、通勤・通学者・高齢者等の利用が見込まれる。

▽まちセンの活用としては、市民活動に対する情報の収集・提供、交流スペースにおける活動団体の募集・紹介、イベントの案内、セミナー・ボランティア情報などの催しに対する掲示板の役割、各種団体に対する補助金を冊子にまとめ提供、Wi-Fi・PC（2台）を設置し、インターネット設備の提供など。その他、市民活動を行う上での団体等の運営、資金を含めたアドバイス等も実施している。

▽市民活動の部分では、講座・講習会の開催、連合町内会の事務局をまちセンで担っていることから、町内会の利用、相談等も行っている。

▽未来をつなぐ1%事業ということで、市の財源を広く市民活動に寄与してもらう目的の補助金について、アドバイスも含めて受け付けている。

▽1年を経過する中、まずは、市民にまちセンを知ってもらい、一度利用してもらうことに重点を置き、各種講座や教室、みんなの夏・秋まつり、まちセン1周年を記念したクリスマスイベント等を開催する予定。

▽市内3つの高校から、高校生ボランティアとして、22名の生徒が参加し、被災地への支援、滝川市への寄付を目的に、市内の7菓子店のご協力をいただき、地元食材を使用したスイーツを生徒自らが考案し販売するなど、高校生もまちづくりに参加いただいている。

▽徐々にではあるが、まちセンの利用者も増えてきており、特に夜間は、高校生の勉強の場として利用されている。しかし、今後は市民がより利用しやすい場所として、また、市民団体がまちづくりについて話し合える場として活用してもらえよう、今後一層のPRに努めたい。

図書館活用向上調査事業（資料2）

▽図書館向上活用調査事業については、移転事業というハードがあって、その入れ物をどう使っていくか、どういうふうに利用者を拡大させていくかをソフトとして、本計画に組み込んだ。

▽都市再生整備計画の中で、図書館の利用者の向上が街なかの向上に繋がるというふうに位置付けしているので、図書館の利用者を拡大する必要があった。

▽そのために、図書館システム、利用者ニーズ調査、検証を事業に盛り込み、平成22年度に利用者ニーズ調査の分析・考察、検索システムの構築をした。

▽目的

平成22年度に利用者ニーズ調査と分析・考察、同じく検索システムの構築であるが、滝川市立図書館は、移転するまで紙で貸出を行っており、道内の市立図書館の中では最後発。今システムが入っていないところは、条例で所管を廃止した夕張市のみ。ある意味利便性の向上というよりは、利便性の部分で追いついたといってもいい。そのためのシステムの構築、そして、23年度につくったシステムを使い、本当に利用者が増えるか実証実験を行い、今年度は効果測定、アンケート調査を経て、検証・分析。これらにより、ハードとソフトの両面から利用者を向上させていき、誰もが利用しやすい図書館を目指している。

▽内容

- ・22年度、市民全般調査（アンケート調査）を実施。こちらは、12歳以上の市民の方1,500人を無作為抽出して郵送するパターン（回収率31.5%）。さらに、図書館への来館者（中学生以上）に対する調査（280人）を対象にアンケートを実施。

※調査項目：年齢、性別、居住地、利用頻度、交通手段、目的、本の検索手段、満足度、望むサービス、充実を望む資料、注目して収集すべき資料、検索システムへの利用意向など

- ・23年度、構築システムを活用し、本当に利用者が増えるか実証実験を行う。
- ・24年度、開館1年を経過した段階で、アンケート調査（22年度の調査が基本的な設計）を実施し、効果測定（検証・分析）。これらにより、ハードとソフトの両面から利用者を向上させ、誰もが利用しやすい図書館を目指す。

▽アンケート結果

〔市民全般調査〕

- ・7割の市民が図書館を利用しないと回答。来館者の7割は自家用車（近くに停留所も何もないことから、車か自転車の利用）。
- ・満足度については、普通とやや不満が50%程度。不満も30%近くあり、全体としては不満の方に引っ張られる形で、満足度が高いとはいえない状態。
- ・充実を望むサービスとしては、当然のごとく本の充実、本の探しやすさ、快適な読書環境、親切的な対応。
- ・充実を望むジャンルとしては、小説。一番冊数は多く、一番貸出が多い。次に医療・健康、暮らし。生活に関する情報の本の充実が求められている。郷土資料としては、そらぶちキッズキャンプ、ジンギスカン、菜の花。
- ・本以外に得たい情報としては、医療・健康、イベント情報、サークル情報。
- ・館内の検索端末については、5割の人が使ってみたいとの結果。

[来館者調査]

- ・来館している方の一番多いボリュームゾーンは60代。これについては、カウンターでも感覚的にも把握。
- ・来館方法は市民全般と同じく7割が自家用車。
- ・来館者は、普通とやや満足が6割で、やや満足の方に引っ張られている。
- ・満足度は、市民全般よりは高いといえる。
- ・充実を望むサービスとしては、本の充実が圧倒的にトップ。2、3番目も市民全般と一緒に。4番目が開館時間の延長。ここに若干の差が出てきた。
- ・充実を望むジャンルとしては、①小説、②暮らしの情報、③医療・健康、ここは若干逆転。これは60代の女性が多いためか。郷土資料としては、そらぶちキッズキャンプがダントツ。②ジギスカン、③川、欲しい本以外の情報としては、医療・健康、イベント、子育て。二番目のボリュームゾーンとして、子育て世代のためか。
- ・検索の端末としては7割の人が使ってみたい。

▽アンケート調査を基に、どんなジャンルの本を新たに購入していくか反映。また、郷土資料として収集する方針として、若干の修正を加えるなどしている。

▽24年度のアンケート調査は集計・分析段階だが、生データを見た感触としては、満足度は大幅に上がっていると言ってもいい。これらを踏まえて、好調な入館者を維持していくためにどうしていくか、本の充実以外の部分をどうすべきかを含め報告書にまとめ、今後の指針にしていきたい。

賑わい再生ロード事業（資料3）

▽回遊・滞留づくりということで、空間デザインとコミュニケーションデザインにより、商店街の活性化に繋がらないか検証作業を進めた。こちらは2か年の事業だが、平成20年度については、実際にこういった形で進めていくかの調査事業で、その結果を踏まえ、実際に進めたのが平成21年度である。

▽20年度に提案された各装置を4商店街（駅前・鈴蘭・銀座・大通）、滝川市、事務局であるACT（アートチャレンジ滝川）で検討会議を開き、実施方法等を検証した。

▽挨拶装置

コスモスフェアの前後2週間、中心市街地にプランターを設置し、コスモス畑を現出するという事で、賑わいを創出（※今年は、丸加高原におけるコスモスが咲かず、事業は継続できなかった。）。これにより、非常に街が華やかになった、活性化に効果があったとのアンケート結果もある。一方で、プランターの数が足りなかったため、インパクトがないとの意見も少なからずあり、今後継続する場合、植樹柵などを活用し、インパクトを出す手法も考えられる。また、この催しに合わせた商店街独自の企画が乏しかったため、イベントとの相乗効果で利益に結び付ける展開には残念ながらならなかったことが次の課題。また、コスモス畑の現出の周知が不足していたことにより、イベントを知らなかった人の割合も高かったので、今後情報発信が重要になる。

▽迎客装置

- ・迎客装置としてのオープンカフェだが、こちらは、イベントやneed it横などにオープンカフェセットを設置し、くつろぎ空間を演出。その後のイベントにおいても活用され、賑わいづくりに一定の効果が得られた。これと併せて、羊のキャラクター（ラムちゃん）を飾り付け、商店街拠点施設イベントと合わせて実施している。その他、イベントとしてウールフェア、羊パレードin滝川、「ラムちゃんを探せ」ウォークラリーなどを実施。

・イベントの結果、商業者の方々と来街者の方々との間にコミュニケーションが生まれ、実証実験時の通行量は、通常の土曜日の約2倍の結果が出るなど、一定の効果があったと思われる。一方で、十分な期間を設けることができなかったため、商店街との連携が不足し、独自の企画に結び付けることができなかったことや、情報発信不足により、イベントの存在を知らなかった方もいたので、今後の課題である。

▽集客装置

need it横にイルミネーションタワーを設置し、商店街に電飾ラムちゃんを設置するなど、賑わい創出に寄与したが、この時期は植樹柵にも電飾しているので、インパクトが若干薄かったとの評価。今後実施する場合、全体的にインパクトを演出するようにしなければ厳しいと思われる。

▽総じて言えることだが、情報発信の不足が問題点にあるので、今後継続する場合は、PRの部分に重点を置くことで、商店街の活性化及び賑わい形成に繋がるのではないかと調査結果となっている。

～～～ 質 疑 ～～～

【委員】

▽図書館について、各調査によると、医療・健康、くらしの分野の充実がかなり求められているが、来館者が多くなった理由に、市立病院の入院患者が来館するケースはあるのか？

【図書館】

▽入院患者が入院着のまま来館することはない。病院としても好ましくないと思っている。ただし、病院へ行った帰りに寄ったとの話はよく聞く。時間帯別の貸出数でみると、ピークは11時～12時。次のピークが10時～11時。その利用者に聞いたところ、病院の帰りに寄ったということから、ちょうど時間的にみても、朝一で病院に行った後の時間に符合する。これらから、病院の近さから寄ったということは、それなりにある。ちなみに、10万人目の来館者もインフルエンザの予防注射を受けた帰りに寄ったとのこと。

【委員長】

▽まちづくりセンターという施設は、ここだけか？ここだけが連合町内会の事務局と一緒に動くのか？

【まちづくりセンター】

▽そうである。

【委員長】

▽既存の市民組織である連合町内会の事務局も兼ねているけども、高校生や市民団体が、こちらのセンターを使っているとの話だが、具体的な数値などはあるか？

【まちづくりセンター】

▽交流スペース、会議室2つ、鏡が全面に張ってある多目的室、調理ができる多機能室があるが、4月以降に限ると、少ないときで月1,400人、多いときで月2,200人、平均月1,600人程度の利用がある。最近では、大正琴や調理といった会としての利用、高校生の放課後利用、日中の高齢者利用などで少しずつ利用者は増えている状況。

【委員長】

▽他のコミュニティ施設と比較したデータなどはあるか？

【まちづくりセンター】

▽データはない。

【事務局】

▽類似施設だと、貸館としての「く・る・る」とよく似た施設ではないかと言われる。「く・る・る」はあくまで貸しブースであるが、まちセンはそれに機能を設け、講座や連携事業を行っているので、単純比較にはならないかもしれないが、「く・る・る」の数値はある。

【委員長】

▽少し違うのでデータについてはいい。まちセンを作るために、既存の公共施設と同様の機能のものを集約化したという話はないのか？

【事務局】

▽もともと市役所2階のくらし支援課に、町内会の受入れ窓口を設けており、まちセン的な業務を行っていたが、図書館が2階に移転することに伴い、どこに移転するか組み立てた経緯がある。

▽中活計画では、まちセン部分が中心市街地活動センター設置事業という位置付けであったが、まちづくりと町内会・各種団体を含めて検討した結果、この都市再生整備計画に追加することになった。

▽国からも、行政機関をそのまま移しただけでは補助には当たらないと言われていた。こちらは、2つあったものを1つにしたというよりも、1つあったものを横スライドさせて、もっと補強したという表現の方が適切。

【委員長】

▽このようなコミュニティセンター的な施設は、いわゆる社会教育活動を担保するような施設であったりするが、実際、そこでの活動（講習会の開催等）が成立していた団体を別の施設に引っ張ることは、他の市町村ではよくあること。そういうものではないのか？

【事務局】

▽最初から事業に統合していくイメージではなく、後追いで、新施設ができたので、こちらの用途としては廃止してよいのではないかという理屈付けになっている。

【委員】

▽先日、まちセンを拝見したが、現在の会議室で講座などは行われているのか？

【まちづくりセンター】

▽講座を中心に行う施設でもないのですが、月1回位のペースで、会議室や多機能室を活用いただいている。12月15日には、クリスマスイベントということで、ケーキづくりなどの講座を開き、来館者に結び付けたいと考えている。

▽まちセンは、基本的に誰でも利用できる場所なので、踊り（ダンス）やお花、講習会、会議などいろいろな分野で利用いただいている。

【委員】

▽ダンス等は、毎週何曜日の夜にといった形で定期的に講習を開催しているのか？

【まちづくりセンター】

▽そのような団体もかなりある。

【委員】

▽総合福祉センターでもいろいろ行われているが、まちセンとの関係はどのようなのか？

【まちづくりセンター】

▽リブラーン（生涯学習振興会）というのがあり、こちらは年会費により講座を中心に運営しているが、そこと競合するので、まちセンでも講座を組むようなことはあえてしていない。

▽講座をした者が引き続き、サークル活動などで場所を探しているときには、まちセンを活用してもらうといった繋がりはある。

【委員】

▽2階以上の駐車場管理はどこが対応しているのか？

【まちづくりセンター】

▽2階から5階までが駐車場で、約100台の駐車が可能。まちセンの専用駐車場として、市が管理。

【委員長】

▽前回、図書館を見学させていただいたが、商店街の一つのお店をピックアップするなど、商店街と連携しているが、こういうのは、都市再生整備計画事業とはまったく関係なく発案されて、行われているのか？

【図書館】

▽基本的に、街なかに移ってきたからには、街なかと連携して繋がっていく必要があるとの認識を元々持っており、そのためには当然街なかに近いところにあるのが商店街であることから、商店街との連携を念頭に置いていた。そのため、この事業をやらなくても、このような連携は行うつもりでいた。

(3) 審議（事後評価シート）

ア 事後評価手続等に係る審議

審議 1 方法書（参考資料 1）

【事務局】

▽方法書の内容に従い、事後評価が適正に実施されたか確認する必要があるが、今方法書を見ただけでは判断しにくいので、これから行う審議 2 以降と同時並行的にご確認いただいた上で、最終的に適正に実施されたかご判断いただきたい。そのため、審議 1 については保留。

審議 2 成果の評価

【事務局】

▽審議 2 については成果の評価ということで、目標を定量化する上での指標が達成されたか否かをまとめたものをご審議いただく上で、まず、「目標の変更の有無」があったか記載したもののご確認をいただきたいが、滝川市としては特段の変更はないことから「なし」と整理している。

▽事業の実施状況について

- ・まちセンについては、地域活性化の拠点・市民の憩いの場として必要なため、平成23年の計画に追加している。
- ・栄町団地については、駐車場の部分を提案事業として計画していたが、公営住宅と一体的に整備し、その住民が利用することから、基幹事業に含め、市営住宅駐車場整備事業は廃止した。
- ・図書館移転事業については、事業費が若干増加しているが、当初計画にはなかった書庫、授乳室、児童用トイレ等を整備したため。
- ・図書館活用向上調査事業については、入札執行により事業費は減少。事業期間は24年度までなので、完成見込としている。
- ・賑わい再生ロード調査事業については、事業費設計に伴い若干の減少。

▽数値目標の達成状況について

指標については、居住人口、歩行者通行量、図書館利用者数の3指標で、計測手法は方法書においてもまとめている。

居住人口	・従前値については、平成19年3月31日時点の住民基本台帳の町別人口データから、中心市街地区域に設定した町丁目の居住人口を抽出し、従前値とした。 ・評価値については、平成24年度が基準とされるが、まだ未確定のため、8月31日時点の住民基本台帳の町別人口データから、中心市街地区域に設定した町丁目の居住人口を抽出し、さらに、集合住宅実態調査の値を合算している。この実態調査というのは、資料3ページのその他特記事項にも記載しているが、住基登録をせずに入居しているケースが確認されたことが起因している。これは、民間住宅等が建設されているにも関わらず、住民基本台帳の人口が増えていない実態を調査した結果分かったことである。そこで、評価値にはその実態値を含ませている。
歩行者通行量	・従前値については、平成19年5月15日時点における5か所の調査値を用いている。 ・評価値については、平成24年5月25日に調査した結果をそのまま用いている。こちらは、これ以降改めて調査を行うことはないので確定値でもある。
図書館利用者数	・従前値については、平成19年3月31日時点までの1年間の応対者の集計値である。 ・評価値については、平成24年度が基準とされるが、年度途中なので、8月末の利用者数に、過去の利用者数の平均値及び過去の実績値を加算して評価値としている。

▽各指標をまとめたものが3ページになり、歩行者通行量以外は数値が確定していないので見込とし、改めて来年度、フォローアップ調査を実施し確定させる。

▽これら目標の達成状況を示したのが3ページ下表である。

居住人口	目標値（2,800人）は、平成22年度以降クリアしており、これからも極端に減少する傾向にないことから、達成度したといえる。
歩行者通行量	今年5月に調査した際の数値は、11,306人。これは23年度以降クリアしている状況にあり、また、次年度まで変更することはないので、達成したといえる。
図書館利用者数	今年7月4日の時点で目標値の65,000人は達成し、かつ、10万人も突破している状況にあることから、達成していると思うが、基準年度は24年度なので、10万人を突破している訳ではないが、これまでの推移からすると、ほぼクリアすることは間違いないと思われる。

【委員長】

▽事後評価会議でまず重要な部分だが、3つの指標はすべてクリアしている。事実そうだとすることで、何か質問はないか？

【委員】

▽評価の物差しは変更できないのか？

【委員長】

▽ここで物差しは変えられない。

【委員】

▽ということは、これで評価することになる訳か？

【委員長】

▽値の設定を変えることはできないが、カウントの仕方がどうだったのかなどの評価は可能。

▽見込数値についてもフォローアップを行うにことになっている。

審議3 実施過程の評価

【事務局】

▽モニタリングの実施状況：滝川市についてはモニタリングを特段実施していないので該当なし。

▽住民参加プロセスの実施状況：都市再生整備計画には記載していないが、賑わい形成に繋がるイベントとして「紙袋ランタンフェスティバル」、「たきかわイエロープロジェクト」をそれぞれ実施したことから、評価にまとめている。

紙袋ランターン フェスティバル	平成14年度から年1回行われており、昨年度は10年目の節目ということで、一部道路を歩行者天国にした上で、ランターンを飾り、賑わい形成の意味からは効果のあるものだったことから、今後関係機関と連携しながらイベントを継続し、さらには滝川市を代表するイベントにしたい。
たきかわ イエロー プロジェクト	今年初めて実施されたものだが、滝川市は菜の花の作付面積が日本一であることから、菜の花と連動した形で菜の花を植樹柵やプランターに植えたが、枯れたり、咲くどころか成長しなかったりと残念な結果に終わった。しかし、イベントとしては効果があると思われることから、今後も継続という意味でも連携を図りたい。

▽持続的なまちづくり体制の構築状況：滝川市としては、現在ある中心市街地活性化協議会をここでいう「まちづくり体制」であると考えているが、あくまで中心市街地活性化の総括的な位置付けで、都市再生整備計画に限定せずに協議を継続したい。

【委員長】

▽モニタリングとは、アンケート調査を行ったり、データを抽出したりするものだが、滝川市では実施していないとのこと。

▽住民参加プロセスについて、2つのことが記載されているが、一部確認したい。実施するにあたり、こういう住民参加がありうるもので置いたのか？それとも、都市再生整備計画をより向上させるために、もともとは関係していなかったが、連動しているとして、住民参加プロセスに位置付けたのか？

【事務局】

▽賑わい再生ロード事業における挨拶装置の花という観点でいくと、菜の花の苗を植えて花で繋げるといふ部分について、この装置が活かされた。

▽灯りの部分でいくと、ランターンは元々あったが、それに置き換わって、住民参加が募れているのではないか。

▽実証実験で行っているのだから、それがこういう効果に結びついてくれればとの思いや関連性もあると思われることから、2つを住民参加プロセスに含ませた。

【委員長】

▽単純に社会実験の対象で住民参加ということではなく、いろいろな立場の方々を巻き込みながら、中心市街地の課題として空洞化問題を解消するため、住民参加による手法を取り、活性化の一助になるというふうに持っていくのが一番正しい姿であると思っている。

【事務局】

▽目標3にもある良好な歩行空間では、花でもてなす形と、賑わう場づくりという形からいくと、当然、灯りの装置を使ったランターンは、人の呼び込みに繋げる意味で大きい。

▽各種団体が都市再生整備計画による関わりがなかったかということ、賑わい再生ロードの受託者がNPO法人アートチャレンジ滝川であることから、主体的に関係している。

▽花の部分は、（社）滝川青年会議所が主体であるが、それぞれ商店街の中のご協力をいただきながら実施していることからいくと外れた取組でもない。

【委員】

▽マイナスではなく、プラスαの評価が得られるのであれば、載せることについては問題ない考える。

【委員長】

▽持続的なまちづくり体制の構築ということだが、都市再生整備計画は、行政が指導しながら実施していくものだが、一方で、中心市街地におけるまちづくり体制という形で位置付けながら、継続的にまちづくりを推進していきたいというふうに位置付けたいということをここで言っている訳か？

【事務局】

▽そうである。

【委員長】

▽持続的なまちづくり体制はどういうものなのかということだが、都市再生整備計画の取組をきっかけにして、何か組織されたり強化されたりして、その後、継続的なまちづくりを担う組織で、それは協議会的なものであってもいいし、もっと任意の組織であってもよく、いろいろな形として可能性はあると思う。

▽今日はお二人に来ていただき、事業に対しての詳細を伺ったが、いろんな取組の中で、新しい種みたいのが出てきていることも含めながら、見ていかなければいけないと思う。

▽一旦、今ある組織としての協議会を、まちづくりの組織として継続的に行っていきたいという意図。

【事務局】

▽私どもとして、中活協にこの部分の了解を得て云々ということではない。他の自治体とは異なり、滝川市の中活協は基金事業を持っており、財産的な部分と事業運営（空き店舗の補助等の機能）を担っている。その他、中心市街地で行われている事業に対しての具申や審議を経て方向性を決定していく形だが、滝川市は少し違う形で動いている経過がある。我々としては、そのまま既存組織となるのか、それとも改組し、メンバー構成を入れ替えるのか検討しつつ、組織の必要性を前提として、次のステップに進んでいくため、このような表現にさせていただいたのでご認識いただきたい。

審議 4 効果発現要因の整理

【事務局】

▽検討体制については、庁内の関係各課で構成する都市再生整備事業効果検討会議を設置し、9月28日に開催した。ここでは、事業の結果に至るまでのプロセスや原因等を総合的に分析することで、成功要因を今後のまちづくりに活かし、十分な成果が出ていない場合は、その原因を究明し、改善に繋げることを重要視している。

▽数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

- ・表にある改善貢献度については、◎が直接的効果があった場合、○が間接的効果、△が効果不十分

まちづくり センター	居住人口については間接的効果が見られたとして○。歩行者通行量については、回遊性が生まれてきた実感から◎。図書館利用者数については、学生が勉強のため相互に活用したり、連携等が見られてきたことから○。
市 営 住 宅	市営住宅の建設により居住者が増えておりますので◎。歩行者通行量については、その居住者が通行していることから◎。図書館利用者数については、中心市街地に移転したことにより、同じ地区として利用者に貢献していると思われるので○。
図書館移転 事業	居住人口については間接的効果が見られたとして○。歩行者通行量・図書館利用者数については、中心市街地への移転に伴い利用者が増加し、回遊性が生まれていることから◎
図書館活用 向上調査 事業	居住人口については間接的効果が見られたとして○。歩行者通行量については、調査による効果から利用者が増加し、間接的に回遊性が生まれていることから○。図書館利用者数については、間違いなく利用者の増加に寄与しているので◎。
賑わい再生 ロード調査 事業	居住人口については、間接的効果が見られたとして○。歩行者通行量については、事業イベント等により、通行量が増加してとのアンケートもあることから◎。図書館利用者数については、事業により生まれた回遊が図書館にも少なからず流れていることから○。
暮ら し・に ぎわ い再 生事 業	暮らし・にぎわい再生事業は病院の改築関係であるが、病院を郊外に移転することを想定した場合と現地で改築した場合では、居住人口に与える影響は大きいことから、間接的効果が見られたとして○。歩行者通行量については、病院の利用者が流れていることから◎。図書館利用者数については、病院の帰りに寄るケースがあることから◎。
商店街拠点 づくり事業	3拠点事業に係る部分だが、居住人口については、間接的効果が見られたとして○。歩行者通行量については、拠点利用者が通行していることから◎。図書館利用者数については、拠点利用者が少なからず流れていると思われるので○。
街なか共同 住宅建設 補助	・街なか共同住宅建設補助がすべて△である理由は、市の単費で実施した際には、申請があり実績を残しているが、地域住宅交付金を受け現在に至る期間においては、1件も申請がなかったことから、本計画では効果が得られなかったということで、すべて△としている。そのため、総合所見において、建設補助の部分を削除している。 ・すべて△だが、かなりの民間投資が生まれ、共同住宅が建設されているにも関わらず、居住面積の関係から、補助事業には該当してこなかった。面積要件が厳しかった理由としては、国の地域住宅交付金との関係で、北海道の計画に滝川市が乗せてもらった位置付けから。北海道の計画では誘導居住水準まで跳ね上げており、単身向け42㎡、世帯向け58.2㎡と、かなり面積が広がっている。そのため、コスト高となり投資も出にくい。よって、財源確保の手法として当該事業に組み込んだが、利用実態としては実らなかった。

▽総合所見としては、

居住人口	公営住宅整備が、民間投資による共同住宅の建設を促進し、新図書館、新病院が利便性を向上させ、中心部の人口減少に一定の歯止めをかけた。
歩行者 通行量	公営住宅整備、民間集合住宅、新病院、新図書館、コミュニティ6施設がオープンしたことで、回遊性を生み通行量の増加に繋がった。
図書館 利用者数	郊外から移転したことで、交通アクセスが向上したこと、図書館活用向上調査によりシステム導入したこと、積極的なソフト事業の展開、これらが相乗効果により利用者数の飛躍的増加につながったと考える。

▽今後の活用としては、

居住人口	継続的に居住してもらうため、周辺の商店街の魅力向上がカギと考える。
歩行者 通行量	各施設の利用に留まらず、商店街との連携により相乗効果を図る。
図書館 利用者数	一定程度経過しているが利用者数は持続していることから、商店街への誘導化が図れば、相乗効果が高まる。

【委員長】

▽商店街拠点づくり事業の説明がなかったが概略でいいので説明を願いたい。

【事務局】

▽商店街拠点づくり事業については、3拠点事業という形で、高齢者の休憩施設として「まちぷら」、コミュニティカフェとして「need・it」、チャレンジショップとしての「ふらっと」の3事業を実施している。

【委員長】

▽事務局の説明どおりだと思うが、改善貢献度について主観的に評価している状況から因果関係が分かりづらい。指標を今後のまちづくりに生かすことを考えれば、しっかりしたデータを収集し、その結果に基づき、次の展開を探るよう、効果を示した方がよい。

▽この会議でどうという訳ではなく、まちづくりの方策ということで、何をやっていかなければならないのかという部分に繋がり、次の策を打ちやすい。

▽庁内の横断的な組織をつくり審議したとあるが、その結果は？

【事務局】

▽ここでまとめられた内容が、その結果を反映したもの。

▽この横断的な組織で、ここについての所見を行ったと理解。

審議 5 事後評価原案の公表の妥当性

【事務局】

▽11月1日～21日の3週間において、インターネット（市ホームページ）により公表。
▽その掲載している旨を10月25日に発刊した広報により周知。

▽説明会・ワークショップについては特段実施していない。
▽それ以外に、商業観光課窓口において閲覧を実施。
▽この間、意見についても受け付けたが、1件もなかった。

【委員長】

▽この方法で実施すると、どこの市町村も意見がない。

審議 6 事後評価手続の妥当性

【事務局】

▽全体総括をして、これまでの事後評価の手続について、妥当に進められたかご確認いただきたい。

【委員長】

▽手続と中身、定量的な数値は目標値をクリアした結果、審議3での住民参加について、まちづくり体制などを評価しまとめている点など、全体的に妥当であると判断してよいのか？ ⇒妥当である（全委員）

▽評価書についてはこれでよいが、次のまちづくりの展開を図るためのデータは取るべきなので、評価会議から市へ提案を追加したい。

▽評価会議は行政と一緒に場だが、独立した組織なので、行政に対して物申す第三者組織であるので、提言していただきたい。

(3) 審 議（事後評価シート）

イ 今後のまちづくりについて審議

審議 7 今後のまちづくり方策の作成

審議 8 今後のまちづくり方策の妥当性

【事務局】

▽こちらの検討にあたっては、効果発現要因の整理と同じく、庁内の横断的組織において実施された。

▽街の課題の変化

コンパクトなまちづくりの推進	【達成されたこと】 ・民間による高齢者向け住宅の建設⇒機能集積 ・公営住宅の建設⇒民間答申による共同住宅建設を促進
にぎわう場づくりにより中心市街地再生と活性化	【達成されたこと】 ・市役所（図書館）、市立病院、福祉センターからなる公共公益拠点が形成 ・まちセンをはじめとしたコミュニティ6施設の整備⇒利用者増加⇒中心市街地の活性化に寄与 【残された未課題】 ・各拠点との連携を強化し、相乗効果により活性化につながる必要がある。

歩いて楽しい 回遊・滞留 ルートづくり を推進	【達成されたこと】 ・賑わい再生ロード事業において、各種装置を活用することで、くつろぎ空間を演出。 ・市民参加によるランタンフェスティバルなどのイベントと連携することで、賑わいある歩行空間を形成できた。 ・市民有志で取り組む「マチろー」により、街なかへの回遊が生まれた。
----------------------------------	--

▽課題の変化に対し、今後の進め方について検討したもの。

効果を持続 させるために 行う方策	・サービス付き高齢者向け住宅の整備 ⇒居住人口の維持又は増加。 ・1軸3拠点の形成 ⇒公共公益拠点（市役所等）、賑わい拠点（3・3地区）、広域交流拠点（駅周辺）を賑わい再生ロードにより繋ぎ、「集客・交流」施設をつくる。 ・各種イベントの継続実施 ⇒各種イベントの継続化・市の代表イベントへの発展化。
改善策	・まちづくりセンター、図書館、商店街との連携強化。⇒利用者が好調な図書館と連携し、まちセン等の各施設、商店街へ誘導化を図り、一層の賑わい創出・回遊性の向上に繋げる。

▽目標を定量化する指標に係るフォローアップ計画：評価値を見込とした指標については、平成25年4月にフォローアップを予定している。

▽当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方：うまくできた経験、うまくいかなかった経験を整理し、どのように活用することが望ましいか分析

数値目標・ 成果の達成	【成功点】郊外から中心市街地への移転効果、利便性の向上、商店街と連携したソフト事業の展開などが図書館の利用者数が想定以上に増加。
活かし方	コンパクトタウンを目指す上で参考となる。
P D C A による事業・ 評価の 進め方	【成功点】中活計画（都市再生整備計画）では、目標に対するフォローアップを毎年実施していることから、適切な計画変更への判断に至った。
活かし方	途中効果を判断する上で重要であり、計画変更等の判断基準として有効。本来はモニタリングの実施が望ましいが、何らかのフォローアップ調査でも十分効果的。

【委員長】

▽賑わい再生ロード事業の説明の際、改善点（情報発信）を上げていたので、今後のまちづくりに活かす上でストレートに記載した方がよいと思う。

【委員】

▽庁内におけるまちづくりの組織とは、関係部署による体制なのか？

【事務局】

▽こちらは、まちづくり全般的な体制ではなく、都市再生整備計画における関係各課による体制であり、今後密接に関係してくる部署である。

【委員】

▽今後のまちづくりの方策を考える上で、関係各課だけでは、滝川市としての街づくりとは言えないのではないかと。多くの所管が参加することで、いろんな視点からの検討が必要と思う。

【委員長】

▽例えば、拠点整備に係る残された未解決の課題について、連携強化が必要であるとしたときに、異なる所管をどのように連携させ、まとめていくのか考える必要がある。都市再生整備計画があったから、この検討組織を設置しただけではダメで、平常的に取り組むことが重要。

▽連絡を密にし、ある種の会合を持つなど、情報交換をしながら、各施設の活性化や連携などを図っていくことが必要。

▽もう少し踏み込んだ場合、事後評価は国交省が作成したマニュアルに基づき進めており、実態として、これで報告することに問題ない。ただし、次に活かせるようにしていかないと意味がない。この計画をつくり実行したことを、次のまちづくりにどう活かしていくのかが重要。目標値を達成して良かったとして終わったのではもったいない。PDCAを回していく必要がある。それこそ、次の展開を考えていることから、その旨を記載した方がよいのでは。

【事務局】

▽我々としてはどうしても、都市再生整備計画の中での今後のまちづくりという部分と拠点連携部分において、横軸の組織という位置付けで、どこが主管課ということもない。そのため、連絡を密にしながらというイメージで組織したが、全体のまちづくりとなれば、当然総合計画からはじまり、企画も加わり、財政的な収支な部分も出てくることから、分野的に非常に大きな課題になる。

▽中心部と捉えたときに、商業振興だけではなくて、そこには公営住宅があったり、道路があったり、基盤的なものもすべて含まれるが、一般的には、中心市街地活性化＝経済部商業観光課というイメージで位置付けられており、疑問に思うところ。

▽我々としては、全般論として考えているので、商業に偏った考え方をもう少し広げ、再度整理したい。それを含め、評価会議の結果においては、都市再生整備計画の成果をどう見て、次に何を進めていかないといけないかという部分で、中心市街地活性化基本計画の認定期間終了後の描きについても、これを軸として、次に展開したいと考えるので、その部分は、追記させていただき、整理していきたいと思う。

【委員長】

▽中心市街地の商業活性化のためだけの事業を行っている訳でなくて、関連はしているけども、図書館移転事業であったり、まちづくりセンターや住宅整備であったり、いろいろな事業を展開している。それはかなり総合的なまちづくり。逆に言えば、そう認識してもらった方がいい。この都市再生整備計画を実施したことが、単純に今までの中心市街地に対しての処方箋の枠を超えて、もっと大きなまちづくりとして実施した事業であるというふうに認識してもらった方がいい。そうすると、課題のズレ、未解決で残った課題、課題の変化という部分における各施設との連携が図られるのではないかとと思う。